

■ R6 年度 第 4 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会 議事録

- 日 時：R6 年 10 月 25 日(金) 18:30 ～ 20:30
- 場 所：香南市役所 6F 604・605

- 出席者(委員)
石筒委員長・石丸委員・小笠原委員・中道委員・門田委員・國常委員・高木委員・北委員
北山委員・古川委員・上田委員・廣岡委員・森委員・江口委員・別府副委員長 (15/15)

- 出席者(市行政)
濱田市長、企画財政課(西内課長・近藤課長補佐・小林係長・安藤氏)
地域支援課(弘田課長)・健康対策課(伊藤課長)・福祉事務所(坂本所長)
商工観光課(萩野課長・府川補佐)・農林水産課(小松課長)・学校教育課(小松課長)
住宅政策課(浜田課長)・情報政策課(中島課長)・こども課(猪原課長)

- 傍聴者 … 1 人(県職員)

1. 開 会

(事務局)

お時間になりましたので、ただいまから、R6 年度 第 4 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会を開催いたします。

さて、本日は、ご多用のところ、本委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

開会に先立ち、新しい委員のご紹介をさせていただきます。

名簿の NO.13 四国銀行 野市支店の支店長さんであります森 様に今回より新たな委員としてご参画をしていただくこととなりますのでよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、浜田市長よりご挨拶申し上げます。

(市長)

皆さんこんばんは。

お忙しい時間帯、また月末の大変忙しいときにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

6 月に始まって、来週から 11 月ということで本当に早いなと思いながら、しかし、半袖で過ごしているということで、気候変動を、本当に秋がなくて、すぐ冬が来るということを常々感じるところでありますし、また今年も本当に終わりに近づいている中で、新たな戦略を、来年に向けて、そして、来年からの新たな総合戦略に向けたこの会の重要性というものを改めて感じるところでございます。

これまでワークショップを軸に開催してきたことから、今回はいわゆる会議らしい会議という感じで行う形ですが、これまで皆様からいただいた意見を磨き上げていく会と認識しており、仕上げの作業に入ってきてるんだと思います。

今日もそれぞれの委員の皆様のお思いと、そしてまたこの香南市の新たなチャレンジな、チャレンジングなお話が聞けたらと思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げますとさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

2. 議事

(事務局)

ありがとうございました。ここからは議事に移らせていただきます。

まず、委員の皆様には事前に郵送・メールにて本日の資料をお配りさせていただいておりましたが、お手元にごございますでしょうか。

なお、資料がない場合は、紙ベースになりますが、予備がございますので職員までお声がけください。

それでは、ここからの進行につきましては、石筒委員長にお渡しをさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(石筒委員長)

今回は第4回になります。

先ほど市長からもお話がありましたが、6月に開催した第1回目の会がこういう形で行いましたけれども、その後は、ワークショップ形式で進めてきました。

本日はそこも含めて、市の方でまとめた形の素案というものをこの後説明していただきますので、一通り説明をしていただいた後に、皆様からご質問とか、それからご意見等を賜ればと思います。

特に聞いていて「あれ、ちょっとこれはちがうのではないか」とか「伝えたニュアンスと違うな」とかですね、そういったところもすごく大事だと思いますので、そういうことをご意見等をまずはいただけないかと思っています。

それでは議事の1つ目、素案に関して事務局より説明をさせていただきます。

(事務局)

少し長くなってしましますが、ご了承ください。

それではまず、資料1をご覧ください。

この資料は、8月の策定委員会でもご提示させていただいたものを上段に、そして、その策定委員会を経て、変更した部分を下段に示しています。

下段の変更点等については、後ほど資料2でご説明をいたしますが、大きな変化として、まず、国の示す4つの柱について、これまでの策定委員会、ワークショップで議論をいただいた内容から、次期総合戦略では、「人の流れをつくる」と「魅力的な地域をつくる」の柱を合体させて、3つの柱(基本目標)として整理をさせていただいております。

次に資料2をご説明させていただきます。

この資料は、これまで皆様から頂きましたご意見やWSで話し合っていたいただきました内容等をもとに作成した、本戦略の骨子(案)になります。

タイトルを「香南市の元気みらい戦略」と、本日時点ではさせていただいておりますが、このあと、私の方からご説明させていただきます内容等から、タイトルについてご意見もいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

1枚めくっていただき、1ページから3ページには、これまでの策定委員会でもお示しさせていただきました「これまでの取り組みの経緯」や「各データ」を示しております。

この部分において、お伝えしておきたいこととして、3ページ上段の「出生数」「合計特殊出生率」「婚姻件数」「平均初婚年齢」のグラフを掲載しておりますが、現状、R4年までのグラフとなっております。

こちらの数字は、高知県健康づくり支援システムにより公表されている数字を掲載しており、11月以降にR5年の数字が公表される予定でありますことから、この部分は最終的に更新した形でお示しする

予定です。

次に、4 ページをご確認ください。ここから、今回の戦略に繋がっていきます。
まず、左上には、「本市の目指すべき姿」として文章を掲載しています。
共有の意味を込めて、読ませていただきますと

全国的に進展する人口減少と少子高齢化に歯止めをかけるため、国は平成 26 年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したことに伴い、本市も平成 27 年度に「香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「総合戦略」という。)」を策定し、人口減少を抑制し、将来にわたって活力のある地域社会を維持するために、「香南市産業振興計画」等と連携し、これまで約 10 年間、様々な取り組みを進めてきました。

第 3 期総合戦略においても、人口減少抑制のための施策は継続して進めていきますが、今後、厳しさが増すことが見込まれる財政状況や人的資源の確保にも限りがあること等を考えると、これからの香南市にとって真に必要な施策は何か、重きを置くべき事業は何かについて、その方向性を明らかにすることが必要になります。

2060 年の総人口の推計は、右に記載されているグラフにもありますが、約 25,000 人で、R5 年度末の人口から、2 割以上減少すると見込まれていることを鑑みると、「人口が大きく減少する中であっても、安心して暮らし、働き、子どもを育てることができるまち」こそが目指すべき姿であると考えます。そのためには、少子高齢化を抑制するための取り組みを本市の強みや特性を生かして進めることで、人口構造を少しでも若返らせるよう努めるとともに、人口減少が避けられないという前提に立った行財政運営を行い、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現するための取り組み、つまり、人口減少に備えるための取り組みも着実に進めることが必須となります。

以上のことから、これからも住み続けてもらえるまちづくりや進学や就職等で一旦は市外・県外に出たとしても「やっぱり香南市がえい」と帰って来てくれるまちづくりにつなげていけるよう、第 3 期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略にあたる「香南市の元気みらい戦略(通称:みらい戦略)」を策定します。
としています。

この文章と中段の「2060 年の総人口の推計は…」とありますが、その先に「人口が大きく減少する中であっても、安心して暮らし、働き、子どもを育てることができるまち」こそが目指すべき姿であると考えます。としています。

こちらの部分が、後ほどご説明いたしますが、次のページの上段に示しております「目指すべき将来の姿」に入ってきます。

こちらの部分についても、また、みなさまにご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

そのうえで、左下には当市の各計画との連携を示した図を、右上には、当市人口ビジョンの R7 年度以降の推計を、その下には、今回の戦略の体制図を示しています。

なお、この「みらいの人口推計」の部分ですが、現在、当課の方で、直近データを活用した、新たな「人口推計」の作成業務を進めていることから、このグラフについては、最終的には変更が予定されます。

次に 5 ページをご覧ください。ここが、先ほどの資料 1 の下段と同資料になります。
それではまず、4 つの柱が 3 つの柱としてまとめた経緯を説明させていただきます。

皆さまには、第 1 回目の策定委員会からお話をさせていただきましたが、香南市の現状もご理解いただき、そのうえで各策定委員会において、「人の流れ」と「地域をつくる」ことについて議論をいただきました。

その中で見えてきたこととして、「人の流れ」を「移住」のことと捉えますと、

魅力的な地域がないといけない。暮らす場所が必要である。人の流れがある地域(人口が増えている地域)では、市が求める町内会等の地域の在り方、コミュニティの形成が進んでいない部分がある。一方で、市民の皆様から見ますと、町内会等の必要性を感じられていない部分がある。例えば、PTAや地域の子ども会のような、子どもを中心としたつながり等が、SNS等を活用して存在している。等の議論が多くありました。

また、地域をつくる では、行政が求める「地域の在り方」等が形成されている地域では、人の流れがあまりない状況が見えており、維持していくことが大変。行事がマンネリ化している。新しい方が参画してこない。各地域に特色や魅力等があるが、その活用を考えたり、その地域で今後も、安心して暮らしていくためには、新たな人の流れが必要。その対象者が元住民といいますか、Uターン者であればなお良いのではないか。もっと言えば、若い方に戻って来てもらえるための地域の魅力化が必要。突き詰めると、魅力ある地域になれば、諸条件はあるが、地域にとどまってくれる可能性もある。そのためには、、、と 人の流れの議論が魅力ある地域の議論になることが多くありました。

これらのことを鑑みますと、今回の戦略では、「人の流れ」と「魅力的な地域をつくる」を1つとして整理し、基本目標2を『「やっぱり香南市がえい」と思えるまちづくりの推進』といたしました。

取り組む内容は、先ほどご紹介した各委員からのご意見を参考に、1つ目は、「地域ごとの特色や魅力を活かし、「市民が主役の地域づくり」を推進し、安心して暮らせる環境を整えていきます。

2つ目は、「人口が減少している中山間地域等では、地域の歴史や誇りを引き継ぐ方々の取り組みを支援するとともに、若い世代のU・Iターン等の移住促進や空き家対策と連動した住居の確保、移住者を受け入れる地域の体制の強化等を進め、地域の新たな担い手(人)の流れを生み出していきます。」

3つ目は、「新興住宅地等、人口が増加している地域では、つながりの希薄化が進んでいる一方で、子どもを中心としたつながり等が定着しつつあります。また、これまで市が推進してきた町内会等の在り方の必要性を感じない住民も少なくない現状を踏まえ、これまでの取り組みを継続しつつも、SNS等のデジタルを活用した「必要な時につながり、頼り合える関係性」を築くための支援等を進め、市民が求める新たなコミュニティの在り方の実現につなげていきます。」

4つ目は、香南市に、高知県に住んでいる限り避けては通れない、「地震」への対応に対することになりませんが、「防災においては、市民、地域、行政の役割を明確にし、「自助・共助」を基盤とした防災・減災のまちづくりを推進し、多角的な視点から市民の意識向上や環境整備に取り組み、「いざという時に支え合える地域力」をさらに強化していきます。」といたしました。

この進むべき方向性の達成に向けた、具体的な取り組みとして、黄色のマーカーをしている5つの取り組みを進めることとしています。

次に、順番が前後し申し訳ありませんが、左の基本目標1の説明をいたします。

基本目標1は「こどもまんなか香南市の実現」としてしています。

こちらは、国の「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」を香南市版に言葉を変えたものになります。

この分野は、これまでの議論の中で、一番ご意見をいただいた分野になります。

また、市長も、就任以来、「こどもまんなか社会の実現」として、「こどもまんなか」という考え方を浸透させ、出産前のお母さん、お子さん、子育て世帯への支援を強化し、全ての子どもたちの幸せの実現を目指されていますが、大きな部分としては2つの見方で整理を行いました。

1つ目は、リード文の前半に記載をしていますとおり、「個々の価値観を尊重しながら、誰もが望むタイミングで安心して出産・子育てができる環境を整えるため、ライフステージに応じた切れ目のない支援に引き続き取り組みます。」ということで、妊娠から出産、子育てに対する支援を引き続き行っていくことを。

2つ目は、リード文の後半の部分ですが、市として、例えば、初めて出産を経験される方々への支援等を引き続き手厚く行い、「安心して妊娠・出産・子育て」につなげていくことに加え、当市では、「地域も一

緒に子どもを育てる」と言いますか、子どもや保護者の方を主人公として、地域のイベントであったり、ファミリーサポートセンターの活用であったり、様々な場面で、子どもや保護者と関わる関係性ができる取り組みを進めることで、子どもも地域と一緒に成長していきますが、保護者の方も一緒に成長できると思いますし、そこに携わった様々なお立場の方々も生きがいや役割を持って生活できる環境につなげていきたいという考えのもと、「地域とともに子育てができる環境を整備し、女性、高齢者、外国人、障がい者等、すべての人が役割や居場所を見つけ、地域で生きがいを感じながら暮らせるまちづくりへとつなげることで、子育て世代も一緒に成長しながら、安心して出産の希望をかなえられるまち(「子育て=香南市」)のブランド化を図ります。」と記載をいたしました。

地域とのつながり等の関わりという部分は、人によっては、煩わしいと感じる方もいると思いますが、先に述べました1つ目の取り組みと、このような環境が作られることで、「子育てしやすい」ですとか「安心・安全に」等のワードに結びついていくと思いますし、初めての出産や子育てを経験されている方々の満足度や安心感が高まることから、『子育て=香南市』というブランド化と捉えて取り組んでいくことで、香南市版の子どもを中心とした「こどもまんなか香南市」の実現へとつなげていきたいと考えています。

そのために取り組む具体的な取り組みとして、4つの黄色のマーカーで記載していることに取り組んでいきます。

最後に、基本目標3です。

こちらは、「仕事をつくる」の部分になります。

これまでの議論の中でいただきましたご意見としては、第1期・第2期は、産業を振興するっていう表現はすでに少し昔の発想で、産業はかなり成熟しているのではないかと。現在の課題としては、マッチする人材をどう来させるか。専門職が必要なケースもあるだろうが、例えば、農業等、本当に人がいない分野であれば外国からの担い手が既にある等、結果的に「振興する」という流れが出てきている。新しく起業することへの支援や働き手の確保、チャレンジできる環境づくり、当市の産業や仕事を守る対策が、今の香南市には必要なことではないか。等のご意見をいただきました。

これらのことから、基本目標3の取り組む方向性は、「魅力ある産業の活性化と新たなチャレンジへの支援を推進」とし、リード文に記載もさせていただいておりますが、DXの活用や多様な人材の確保、時代に沿った生産性の向上、付加価値化に向けた取り組み等に対し、引き続き、支援を行い、本市の産業の維持・成長へとつなげていくことに加え、農業や起業等、当市で新たなチャレンジを行う方に関する支援にも取り組み、本市の産業が将来にわたり成長し続けられる「好循環」へとつなげる。としています。

なお、この基本目標は、当市産業振興計画とも連携し、整理を要するものとなりますので、産業振興計画の方で決定していく方向性も鑑みながら、今後も整理を行っていきたいと思います。

なお、これら3つの柱(目標)は、密接に連動するもので、1つ欠けても、各基本目標は、止まることはないにしても、進み具合は遅くなる部分があると思いますので、3つの柱に紐づく各取り組みをしっかりと進め、目指す将来像へとつなげていくこととしています。

以上が、各基本目標の説明となります。

話が長くなり申し訳ございませんが、続けて、6ページをご確認ください。

このページは、先ほどの基本目標1で取り組む具体的な内容になります。

基本的には、総合戦略を作成する際の国のガイドラインに則り構成をしています。

説明として、左上からには、基本目標の数値目標を記載しており、基本目標1の数値目標は「出生数」としています。

R5 年度末の数字を基準値として、本戦略の最終年度である R9 年度末の目標値を今後設定していく必要があります。

なお、目標値に関しては、今後、各課と調整をしていく予定でありますことをご了承ください。

その下には、「こどもまんなか香南市の実現」に向けた方向性を期指しています。

ここは、先ほどご説明したリード文と同じです。

その下の「具体的な施策と重要重要業績指数(KPI)」ですが、ここには、「具体的な施策」について、どう取り組んでいくかを文章で示しており、その施策の重要業績指数(KPI)を示しています。

例えば、『1, 妊娠・出産に関する体制の充実』では、

妊娠期からの継続した相談や支援が受けられる体制の充実に引き続き取り組む。

出産後の支援にもしっかり取り組むことで、母子ともに健やかに過ごせる環境づくりをさらに確立し、安心して子育てできるフェーズへとつなげていくことを方針として、KPIは「妊娠・出産について満足している割合」と「この地域で子育てしたいと思う親の割合」としており、その各 KPI の達成のために、妊娠・出産期には、ひし形で記載されている各事業に取り組んでいくという見方で整理を行っています。

右のページには、残り 3 つの取り組む具体的な施策、リード文、KPI を同じように記載しています。

また、以後、7 ページ、8 ページにも同じような形で、各基本目標の整理をしておりますのでご確認お願い致します。

なお、6 ページから 8 ページに記載している内容で、例えば、7 ページでご説明をいたしますと、左のページの「具体的な施策と KPI」の黄色いマーカーで記載のある「1.移住を希望する 若者 への対応強化」とあります。

この中には、『若者』というワードが入っていますが、これは、8 月の WS の中でしっかりと若者というワードを明記するべきであるとのご意見をいただいたことから、明記をさせていただきました。

また、その下のリード文において、例えば、U ターンや I ターン…とあり、「本市の魅力や本市で暮らすことのメリット・デメリットを整理」という言葉や「移住したいと思われる香南市をつくる」、また、その先には「フォロー体制等に～」というワードを入れていますが、こちらも皆さまと議論し、その中で生まれたワードを活用させていただいています。

右ページの「3.各地域住民が必要とする…」とある、下段のリード文の「自分の暮らす地域のことが他人事」というワード等も活用をさせていただいております。

また、繰り返しになりますが、8 ページの基本目標 3 に関しては、当市産業振興計画と整理をしていく予定です。

次に資料 3 の説明を簡単にさせていただきます。

こちらは、先ほどの資料 2 の 6～8 ページに記載のあった数値目標や各 KPI をまとめたものになります。

R7～R9 年度までの各年度の目標値は、今後各課と調整し決めていきたいと考えていますので、中身はありませんが、こういった形でとりまとめ、来年度以降、みなさまと確認をしていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

以上、長くなりましたが、説明を終わりにいたします。

(石筒委員長)

ありがとうございました。一通り説明をいただきました。

それではこの後、皆さんから意見交換ということで、意見をいただければと思いますが、基本目標が 3

つになっています。

以前は4つあって、人の流れをつくと魅力ある地域をつくるが合体した形で、基本目標2となっています。

基本目標1が、こどもまんなか香南市の実現になっていますが、その前は結婚・出産・子育ての希望をかなえるということでありましたが、こどもまんなかの言葉になっているという事はご理解いただけたかと思えます。

いろいろな観点から、皆様のご質問ご意見等いただければと思います。

(石丸委員)

農業部門の方で委員をさせてもらっています石丸です。

今まで、香南市の目指す将来像と形態というのを議論してきたが、やはり今後の香南市を背負っていくのは、若い方であり、若い人たちが背負っていかないといけないのかなというふうに思っております。今日ご参加いただいている若い方々の意見を参考に今後とも進めていかなければいけないかなというふうにも思っています。

また農業関係につきましても、皆さんもご存じのように、厳しい厳しいと言われております。

現実非常に厳しい中でも、やはりこの香南市の中で農業の生産者が生き残っていく戦略については、販売単価も上げていく上で非常に大事なこともありますけれども、やはりいろんな経費の削減をしながら、農家が生き残っていく戦略をやっぱり、していきながらやらないとなかなか厳しい情勢になってきております。

そういった意味で、香南市も含めていろんな補助事業も含めまして、今後活用していきながら、香南市の産地として生き残っていきたいと思います。

また今後ともいろんなご意見のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

(小笠原委員)

香南市・南国市・香美市3市の広域観光組織になります物部川DMO協議会の小笠原と申します。

今回の資料は、最初の案から変わりました、とても想像ができるような目標の設定になってるなという印象がございます。

これからKPIの数字を決めていくっていう部分は大変だと思いますが、「若い人が」という話がありましたけれども、若い人がいると、私もこれからどんどん年齢を重ねていきますが、そういうところにこそ、年齢を重ねた方も「住みたいな」と思うのではないのでしょうか。

この若者。若い人たちを中心にする「こどもまんなか」という取り組みは、これから年齢を重ねていく方々にとっても魅力的なまちになるのではないかと感じております。

私は観光の仕事をしておりますけれども、観光のインフルエンサーっていうのはやっぱり若い、そこに住む人達だと思いますので、こういった人たちが住んでいただくことで、香南市の観光産業も発展していくものだと感じております。

(中道委員)

ご説明ありがとうございました。クロスピアコンサルティングに所属しています中道と申します。

先ほど小笠原委員からもありましたけども、私も概ね賛同する立場であります。

説明いただきました1つ目は「目指す将来像について、こちらの方針が合っているかどうか」、2つ目は「基本目標が4つから3つになっていますけども、こちらの方針、また内容について我々が賛同できるか。変更した方がいいか」、3つ目が「それぞれの目標に対しての内容について問題はないか、再設定は必要あるかどうか」というふうに認識をしております。

その上で1点目と2点目について、私は賛同いたします。

やはり子どもということの子育てという点を打ち出すということは、冒頭ご説明がありました通り、香南市として子育てをブランド化するという方針ではまさに適用していると思ひますので、この1点目については賛成いたします。

また 2 点目についても、論点として目標にもともと 4 つあったものを 3 つに分けていますけれども、これまでの議論の中で人の流れをつくと魅力的な地域をつくるが 1 つになってる、これはこれまでの議論を踏まえての内容となっているかと思いますがこちらも賛同いたします。

3 点目ですけども、2 つコメントさせてください。

1 点目が「こどもまんなか香南市の実現」。についてです。方針は賛成です。

その上で、具体的に書いていただいています基本目標ですが、概ね当事者は、子育てをしている方々、つまり、親御さんであったり、子どもについての目線ではないかと思っています。

一方で、当事者を支える方、例えば、保育士さんたちや行政の方々の負担が大変であったり、これまでに経験のない担い手不足だったりといった議論がこれまでにあったかと思っています。

例えば、支持する・支援する方のニーズを維持するだとか、残業時間を減らすといったところの KPI についても議論したほうがいいのかないかなっていうふうに思っています。

2 点目が基本目標 3 の緑の部分ですね、「魅力ある産業の活性化と新たなチャレンジへの支援を推進する」という点です。

私デジタル・DX の推進という部分から委員をさせていただいております。

この DX という部分は、ぜひ設けたほうが良いと思いました。

冒頭にもご説明がありました通り、人口減少であったり、また財政状況は厳しいという中で、デジタルツールを活用するということは非常に重要だというふうに認識をしております。

また、先ほど石丸委員から、農業分野も厳しいというお話ありましたが、農林水産業、第一次、第二次、第三次産業含めて、デジタルツールは必要だと考えています。

実際、資料 2 の 8 ページの基本目標 3 の具体的なところを見ますと、KPI の 1 の④の部分にデジタル技術を用いた取組の強化(DX 化)への支援とあります。

具体的にこれからの DX について、今後デジタル化をどう進めればいいのか、DX をどう進めれば良いかというところは、具体的にここの議論で落とし込んでいきたいと思いました。

(門田委員)

まず資料を見て、僕は夜須町に住んでるんですけど、僕が 70 歳ぐらいになると、夜須町は 800 人ぐらいになると書いてたのをちょっと見て衝撃を受けまして、本当に何とかせんといかんというふうに思っております。

資料はすごく見やすく作っていただきまして、本当にまとめるのは大変だと思います。

僕も前職で、こういう資料を作ったりとかしてたんですけど、やっぱり KPI とかっていうのは、すごく会社とか、組織で動いていく上では重要な数字になってくると思うんですが、やっぱりこの KPI に出しました、大きな目標を掲げましたで終わってしまうのはだめで、その中で、じゃあどうやって改善していくか等の部分が重要になります。

PDCA とか、今ちょっとまた別の言い方もあると思いますが、例えば PDCA というものを回すのであれば、それをちょっとやっぱり短期的に、もっとスピード感を持って回せるような指標っていうのを出していければいいのかなと思います。

KPI をつくと、どうしても年度の目標であったりとか、例えば、R7 年にはいくつ、R8 年にはいくつという数値的な目標はできると思うんですけども、例えば R8 年のこの時期にここまでいってなかったら、ちょっとここは変えていかんといかんよねというような、その先で、プラン B とかプラン C っていうのも、やっぱりこれは変えていかんとですね、結局 R10 年になって、結果がいかなかったとなっても、R6 年には戻れないっていうのもあるので、設定時には、スピード感を持つっていう意味では、こういう KPI を作って、大きな目標を出すっていうのはすごく大事ですけども、その中で実行する上で、どういふふうに細かい動きをつけていくかとかですね、あとは、例えば 3 ヶ月に 1 回、半年に 1 回、本当にその KPI が合ってるのかっていうのをしっかり確認をしていくような、それは多分いろんなやり方があると思うので、それを香南市の中で、一番いいやり方を探していければいいと思うんですけど、せっかく

目標があって、これからやっぱり本当に香南市を良くしていく、人口を増やしていきたいという形であれば、やっぱり1年ごとについていう目標をさらに細かい数値であったり、行動計画であったりとかについていうのを作っていて、それを僕らが本当にこれで合ってるんだろうかというのをちゃんとチェックしていけるようなことができれば、もっともっとスピード感も出てくるし、もっともっといいものになってくると思いますので、そこを一緒にもっと作り込んでいけたらなと思って、資料を見させてもらってました。

(國常委員)

私は香南市で産前・産後の方を中心とした体のケアのサロンをしてるので、普段から産前・産方に関わることが多くて、この計画を見ていて、「香南市＝子育て」をブランド化していくっていうのはすごく良いと思いながら説明を伺っていました。

サロンに来てくれるお客さんで、市外からも来てくれている方がいらっちゃって、香南市外の方から聞かれる声として、「香南市って何か子育てしやすそうですね」みたいな声はちょこちょこ聞いてはいるので、何となくそういうイメージは必ずあるのかなと思うんですけど、さらにここに書いてあるようないろいろな事業を、妊娠・出産期の事業とかがもっととどンドン進んでいったら、本当にもっともっと「香南市＝子育て」っていうブランド化ができていくと思います。

もう1つ思ったのが、門田委員さんの話と結構似てるんですけど、以前の仕事で、患者さんの対応等を決めるとき、短期ゴールと長期ゴールっていうのをいつも決めて、半期でどうやったかっていうのでそこでまたプログラムを考えてっていう感じで進めてきた経験があります。

なので、この目標とかっていうところも本当に短期目標と長期目標みたいな感じで、もうちょっと細かく分けたほうがより進んでいくんじゃないかなっていうのは、私も感じたところでした。

(高木委員)

私も門田さんや國常委員さんと同じで、やっぱり長期の目標っていうのはすごく大事だし、それに向かったの数値化とかも、すごくわかりやすいものだとは思いますが、やっぱり短期での目標っていうものもないとなかなか進んでいくのができないのかなと思いました。

あと、目指す将来像で当初の案では、「デジタル活用で少しずつ解決」とありましたが、新しい案の方では、「3つの基本基本目標は連動」という形で、デジタル活用のところが無くなってしまっていたので、なんかそれは、やっぱりその若い世代をこれから増やしていくためには、デジタルの活用というところはすごく大事だと思っています。

保育所等に行っても、いろんな書類がありますが、手書きのものがあまりにも多すぎるとすごく感じるもので、そこは、デジタル活用でやっていくと良い香南市になると、もっともっと、若い世代が香南市に来ると思います。

(北委員)

非常に全体的にわかりやすくイメージしやすい文言でまとめられてて、非常に良くなっているというふうに思いました。

この中で言いますと皆様からもすでにお話が出ていましたが、目指す将来像のところの3つの基本目標は連動しているっていうことなんですけど、ここにやはり真ん中にデジタル化がこないといけないし、それからSNS等の活用ですかね。これももう入ってこない。

子育てをブランド化して、外にPRしていくっていうところが、弱くなるんじゃないかなって思いました。最初の図では先ほどもおっしゃられていましたように、デジタルの活用で少しずつ解決って書いてますが、少しずつでは全然駄目だと思って、とどンドンデジタル化していく、それがこの3つの基本目標を連動させていく。そのためにもこのデジタル化をすすめて、それと同時にPRをしていくっていうか外に発信していく力。これを中心に据えないといけないんじゃないかなというふうに思いました。

それから、これもすでにお話が出ておりますけれど、KPIのところ、通常企業では最低1ヶ月ごとにはもちろん見ていくんですけど、1年を4期に分けて3ヶ月毎に見るケースもある。

6ヶ月毎だと、今は変化のスピードが速いのでその対策が遅くなる、変わってくるケースもある。変化が早いので、やはり3ヶ月毎ぐらいには見ていきながら、6ヶ月でやはりこれでいいのかっていうふうに検討をしてやっていく必要があるだろうと思いました。

すでにこういうKPI評価書が出てきたことについては非常に評価できるというか素晴らしいなというふうに思いました。

でも、よりスピード感を持ってやっていかないと、先ほども3年経った後、何か1年前とか2年前3年前に、もっとこういうふうに変えていたらよかったっていうふうなことにならないようにしていかないといけないなあというふうに思いました。

(北山委員)

私自身がデジタル化できていないので、皆さんすごいなと思いつながら聞いているんですけども、目標はうまく整理をされているなと思いました。

人口減少を抑制するという意味で、こどもまんなかというのが基本目標1に来るのは確かにそうかなというふうには思いました。

でも一方で、やっぱり高齢化が進んで、いろいろな世代の人たちがいて、高齢の方もまだまだ地域で活躍していかないといけない社会っていうことを考えたときには、どの世代にとっても関わりがあるっていうのは、基本目標2じゃないかなというふうに感じました。

例えば、「やっぱり香南市がえい」を思うタイミングってすごく人それぞれだと思うんですね。大学行ってすぐに戻ってきたら、それは同じかもしれない。でも一方で、例えば私の職場でも定年退職よりもちょっと早めに退職して、地元に戻られて親の農業を何とかそういったような方って結構いて、60歳ぐらいから農業を引き継いだら、20年ぐらいはその農地を守るわけであって、そういったいろんな世代の方がしっかり役割を担うってということが大事じゃないかなというふうに思っていると。この基本目標2っていうのが、基本目標1でもええんちゃうって個人的には思いました。

あともう1ついいなと思ったのは、こうやってワークショップでお話をすると、人口がまだ増加している野市町と人口がどんどん減っている赤岡等の4町というのは、全然状況が違うっていうのがわかって、1つの市の中に混在していて、市として、非常に1つの方向性を持つっていうのがとても難しいし、いろんな感情がその中に渦巻いているかなというふうに思っているんですけども、計画の中に地域ごとの特色や魅力とか歴史とかってというような言葉がたくさん散りばめられていて、地域それぞれがやりたいと思ったことを形にしてくれるんじゃないか、手伝ってくれるんじゃないかなというような期待が少し感じられました。

また、KPIの考え方については、門田さんのおっしゃられたご意見に私も賛同します。

昨日、NPO法人の立場で高知県の福祉教育ボランティア学習推進委員会という委員会に参加した。高知県で「夏ボラ」という夏休み開催されるものがあり、そこにボランティアとして小学校から高校生、大学生ぐらいまでが参加するのを高知県内全域で募集して、そこに生徒たちが申し込んで参加するものになるが、子どもの人口がどんどん減っているのに、その場に参加する子たちっていうのはすごく増えていっている。数百人単位で増えていっている。

それはそれだけ地域に貢献したいっていう子どもたちが増えていることであつたりとか、それに対する場をそもそも作っている地域の人たちの活動があつてこそ成り立つのかなというふうに思うんですけども、まず、そういった「ボランティアに参加する」であつたりとかっていうことも、子ども・子育てを幅広くいろんな人たちが一緒に取り組むであるとか、そもそもそのコミュニティっていうものに、子どもたちが入り込んでいくための非常に大事なきっかけじゃないかなというふうに思うと、資料の中に記載がある「地域と連携した子育ての推進」みたいなところにはもっといろんな指標が入ってもいいのかなと思いました。

(古川委員)

私が思ったのは2点ありまして、北山委員がおっしゃられたように、基本目標1の「こどもまんなか香南市の実現」というところで、もちろん人口を増やしていくっていう施策の上では、やっぱり子どもの数を増やすっていうのが一番大事だとは思いますが、結婚っていう形をとらない人であったりとか同性婚であったりとか、今、非常にその在り方が多様化してく中で、結婚して、若い人が子どもを産んでという部分は今までとはちょっと変わってきてるので、基本的には香南市に住みたいよね、住みやすいよねっていう人を増やして、その中で子どもを持ちたいなっていう人を増やしたいとか、子どもを持ちたいと思った人にこういうふうに手厚くサポートしてるんだよっていうところを、その次にアピールするほうがスムーズではないかなと思うので、そういう意味では北山委員がおっしゃられたように、まずは香南市に住みたいなっていう人を増やすっていうのが目標1でもいいんじゃないかなというふうに思いました。

もう1つは、私は農家をしてまして、こちらの基本目標3のところにてできますが、農林水産業に対しての施策、事業は今やっていますよっていうところを書いてくださってるんですけども、農業って皆さんご存じのように、非常に農業者が減ってきてまして、すごくピンチな状況なんです。

ただ、施策・事業ってすごくたくさんあって、国や県、もちろん香南市も非常に手厚く支援はしてくれてるんですけども、正直、私が農業始めた10年前から、そんなに大きく内容が変わってなくて、ここに記載して下さってるものは、農業者であれば、みんな知ってる施策なんですね。

それだけ手厚くやっても、やっぱりこの10年、私が知ってる限りでは、農家さんは減っていく一方ということは、やっぱり新たに取り組むとか、この10年やっぱり農業も変わってきてるので、例えば、外国人材を入れた農家さんに対する支援であるとか、1つの農家さんが耕作する面積が増えてたりする場合も有るので、そこに対して新たに支援をしてくださってるんですけども、そういった形で、変わってきた農業に対してこういうふうに香南市も支援を変えて来ていて、新しい支援やっていますよって言いますか、「今までとは違いますよ」という何かこう施策・事業を、せっかくだったら入れたほうがいいんじゃないかなと思いました。

せっかくだらアピールするのであれば、今までの定番のメニューではなくて、今後に向けて新たに力を入れてますよっていうメニューをわかりやすく入れた方が、目標達成に繋がりがいいんじゃないかなと思いました。

(上田委員)

香南市社会福祉協議会の上田です。

率直に感じた印象としては、この新しい基本目標の方を見る中で、言葉自体が具体的にイメージが作りやすいかなっていう印象を受けました。

地域福祉の方、社協の方ではこの「魅力的な地域をつくる」と「人の流れをつくる」という部分はセットになってきますし、人材がいないと、地域福祉は成り立たない部分もありますので、融合することで、より伝わりやすいなっていうところが印象的だった。

ただその反面、福祉の方はなかなかこのKPIというところでいくと評価がしづらいところで、例えば、まちづくりの自治会がいくつできたとか、そういったものはわかりやすいんですけど、そこができたから、その地域が暮らしやすくなったか、良いコミュニティになったかといわれると計りにくいところもあるので、一概には表せない部分もあると思うが、なにかの満足度であるとか、そういった指数で整理をされても良いのではないかと感じました。

(廣岡委員)

資料を見て、すごくわかりやすいとは思いますが、一般市民として見たときに、やっぱりどこか、とっつきにくいところがあります。

私は仕事上、映像を作っていますので、映像化して、もっとわかりやすい工夫なんかを協力できたらなと思うところです。

(森委員)

お話を聞いてた中で、将来目指す将来像に向けた基本目標 1 から 3 と作っていただいている中で、各分野に目標数値を設定し、今後進捗を図っていこうというところだと思うんですけども、この数値の確認の部分で、各委員が言われてたように、3 ヶ月、4 ヶ月に 1 回は進捗を確認して、どうなっていくのかということも必要であると思いますし、それを達成できることが大きな目標値の達成に繋がっていくのかどうなのかっていうところも非常に大事だと思いますので、全体像はこれで私はいいと思いますけれども、そこに取り組んでいく中での進捗を、3 年間の中で、今年の 1 年、来年の 1 年、次の 1 年というふうな形で、進捗というか見ながら進めていければいいんじゃないかと思います。

非常に世の中の環境が早く進んでいます。今後、いろいろ見直しもせないかんとところも多々出てくるかと思えますけれども、そのためにも、やはり、4 ヶ月に 1 回ぐらいですね、3 ヶ月でもよいですが、進捗を見直し、どういうところをしていくべきかを常に振り返り、検討していくことが必要じゃないかと思っています。

(江口委員)

立場上、私から香南市の計画にとにかくいうのも難しい部分ではありますが、この議論の後には、資料 2 の 5 ページ上段に書いています、目指す将来像の文言を皆さんにアイデアを出してもらってみたい話とかですね、表紙の戦略の名前を考えてくださいねっていう議論があると思います。

まち・ひと・しごと創生総合戦略というのは、実は 10 年ぐらい前から始まっています。「地方創生」という言葉を聞いたことがあるとは思んですけど、最近では、石破総理大臣になってですね、この取り組みをもう 1 回頑張ろうという動きも出てきています。いわば日本全国、地域で人口減少だとか少子化が進み、東京一極集中が進み、地方がかなり疲弊している中で、どこに住んでもやっていけるようにということで、仕事があり、住みやすいようなまちをつくるために、国、県、市町村がその表立ったものをつくろうというのが発端になってます。

そんな中、さっきあったんですけど、実はこの 10 年の編成の中で、デジタルの力を使って、より良くしていこうという動きがありました。これがデジタル田園都市国家構想っていうもので、皆さんも聞いたことがあると思いますが、これと、先に述べた「地方創生」は同じ取り組みなんですね。

先ほどご意見がありましたように、デジタルの力で少しずつ解決するという部分は、少しずつじゃ本当はないんですよ。

デジタルを活用して、より便利に田舎でも暮らしましょうというような戦略にしましょうというように考えていくときに、そういうものもやっていかなきゃいけないで、最初に述べましたが、県も、今回香南市さんが作ろうとしている戦略を作って取り組んできておりまして、昨年度で第 2 期が終了し、本年度より 3 期が始まっています。

第 2 期までは、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と銘打っていましたが、本年度から尚取り組み、第 3 期からは「高知県元気な未来創造戦略」という名前で、戦略名も変えちゃいました。

高知県はとにかく人口減少が激しいということで、人口減少対策に特化する形で戦略を考えるものにシフトをしました。

必ずしもその考えを市が取る必要もないんですが、そういう部分の中で言えば、市の将来像について、「人口が減少する中であっても、安心して暮らし、働き、子どもを育てることができるまち」として、「人口が減少する中」という部分が香南市さんのオリジナルで現れてるところなんだと思えますけど、下がるのは仕方がないというところを記載している。

高知県全体では、高齢者が多いので、どうしても人口が減少していくことが見えている。これ仕方がないんですけど、そのあとに、安心して暮らし、働く、子どもを育てることができるまちという

このあたりの表現はどうなんだろうという部分もある。

また、「こどもまんなか」と言って、対象者が子どもを育てる側、親のような気もするんですけど、そういうようなところも含めて、この辺がきっと大事なキーワードで、皆さんのご意見も踏まえながら、この後考えていくのかなと感じている部分です。

(別府委員)

副市長の別府です。

今日は、自分の方では、委員というよりちょっと事務局的な立ち位置で、委員の皆さんからどんな意見が出るかなということで聞かせてもらっていました。

皆さんのご意見等から、概ね、骨子(案)については良い感じの評価をいただけたのかなと思っていますが、多々意見のありました「KPI の設定」や「どのように実効性を保っていくのか」、「PDCA をどうまわしていくのか」というようなところに整理が必要かなと認識いたしました。

県では、産業振興計画ができたばかりのとき、本当に 3 ヶ月に 1 回、進捗管理シートを作ってやっていたので、その時代を思い出しまして、そういうことをやらないかのかなというように感じたところでございます。

また検討したいと思います。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

皆さんから意見をちょうだいいたしまして、僕自身も委員の 1 人として意見を申しますと、1 つ基本的に、基本目標の作り方、整理の仕方というのがやっぱり今回、委員の皆さんに参画いただいて、市民ベースでずっと入っていただくということで、その目線というか視点というのが常にちゃんと捉えられてるかというのを確認していく必要があるだろうと。

「これは、行政のための施策です」みたいにならないという意味合いです。

今回、意見をいただいたこともそうですし、戦略を作っていく中で、基本的な部分でもあり、注意しておいた方がいい部分だと思います。

幾つか皆さんの意見のポイントを見ていくと、やっぱり 1 つは 4 つ柱があったものを 3 つにしたので、ここがかなり大きいのかなというふうには思いました。

ここは基本目標の、今は 2 にあるところっていうのは、対象の世代が子どもからお年寄りまで、全世代が全部入っていて、これが 1 つ基本になってきていて、その中で子育てというのはかなり大事だったことで 1 つ柱として立ち上がっていて、同じく仕事の部分もあるという形であると思います。

仕事の部分でいうと、香南市の主力産業の 1 つとして農業っていうところをもっと強調してみてもいい部分があるのかもしれない。

今は具体的な施策で見ると、ちょっと見にくいところがあるんですが、市の中に様々な産業がある中で、農業というところを、どこまで表現できるかっていう部分。

もちろん多種多様な産業がありますので、基本目標 3 でそこだけっていうことはないですが、これを広げて見たときにやっぱりそのところが、10 年あんまり変わっていないんじゃないかっていう結構重要な指摘もありました。

それから、DX については、ご意見が複数あったと思いますが、もっと前面に出していくべきではないかのご意見もありました。

DX の取り組みから、いろんな変化に繋がっていくと思いますので、実態との整理を含めた、その表

し方、出し方の工夫は必要だろうと感じました。

確かに、現状ですと、「DX も何となくやりますよ」ぐらいしかとらえられないですけど、もっとわかりやすく具体的に何をやるのかっていうところが見えるような形があったらいいのかなと思います。

あとは KPI のところでは、戦略策定後、来年度になると、委員の方が集まっていたら、数字を見ていただくことになるわけですが、確認の間が空きすぎると、前回、どんな話してたか、だんだん忘れていくので、数字を見て「良い、悪い」とかっていう話になってしまうので、どちらかという、やっぱり進捗状況を見ながら、「ここが難しいのは何でだろう」とか、「どうすべきか」みたいなことを、ワークショップで、見たりとか、材料が出るようなフォーマットを、もちろん今回提示いただいたフォーマットも使用しますし、市としてのフォーマットもあると思うんですけど、そこは、やっぱり四半期ごととか、そういったもので、立てられるものは立てたらいいと思いますし、事業によっては、数値はそんなに変わらないから年度毎だっていうふうにはなっているんですけど、やっぱりそのプロセスが当然あるわけですから、具体的にどういうふうに進んでいるのかっていうところが見えるように、むしろそっちの方を重視する意味で、数字等を細かく出していき、「そこをちょっと見ていきましょう」、「どういうプロセスでこの数字をやってるのか」って議論に繋がると思います。

年度毎の結果だけだとプロセスに意識がいかないんで、プロセスをみんなで確認しながら、「こういうふうに変えたらいいんじゃないか」ってような議論ができるように KPI の作り方を工夫してみるということで、これかなり大きな宿題になると思うんですけど、まだ時間はあるので、チャレンジしていただいて、これをみんなで確認していただければと思います。

今回の素案に関しては、ご意見をいただきましたので、事務局の方で整理をしていただいて、策定委員会は 2 月とスケジュールにはありましたが、途中、途中で、こういう会議にするか、メールベースで意見をもらうようにするかは検討をさせてもらえたらと思います。

さて、先ほど江口委員から少し話題が出ていましたが、タイトルもポチポチ考えていこうかということで、追加資料という事で、タイトル(案)等を記載した資料があると思います。

この部分について、事務局から少しご説明をいただければと思います。

(事務局)

これまで皆さんと一緒に議論してきたワークショップ等の中から、まずはこの取り組みの目指すべき姿として、資料 2 の 4 ページ左上に記載した中身でやっていくということで整理をしてきました。香南市民が中心だよっていうところで、この計画を進めていくように整理がされていると思います。その中で、黄色い背景があるところの文章が、目指す姿を表していて、ここからタイトル等へと結び付け、名称等に繋がるような言葉はここから連想していただくような形になるかと思っています。「少子高齢化を抑制するための取り組みを強みや特性を生かして進める」とか、「人口構造を少しでも若返らせる」とか「人口減少は避けられない」という前提に立って、将来にわたって持続可能なまちっていうところを考えると、別紙のようなタイトルになるのではないかと。

先ほど出てきた言葉の中に、作り方としては、廣岡委員もおっしゃったように、わかりやすいようにというところが一番市民目線になるのではないかっていうところで、まずは、シンプルでわかりやすい言葉で考えてみようということで整理をしています。

これまでの将来像ですが、1 期、2 期を見ていただくと、結構堅い感じがしますので、こういったところも主題となる名称のサブタイトルとして、このサブタイトルで読めばイメージできる、主題をイメージするためにサブタイトルがあるといった形の作り方をしようかというところで、皆さんのお手元にもご提案させていただきます。

資料の下段にある②の、1つ目の目指す将来像(案)として、「若者が住みたいと思えるまちへ」をご提案します。

これまで地域の中で人がいないことや移住者が来るために、そこに呼び込むために、若者が住みたいと思えるまち、子育ての時からそういう環境になっていたり、年齢を重ねたとしても自分の産まれた場所へ帰ってきてもらえるまちにしたいとか、そういうご意見もありましたことから、この中にはそのような思いが詰まっています。

一言で言うと若者が住みたいと思えるっていうところには集約してますけども、そういった思いから1番はあります。

2つ目としては、やはり「このまちで」となると、「健康で、長生きで、笑顔で暮らせることが幸せに繋がる」というところがあると考えました。

3つ目として、「安心して暮らせる」というところが、「子育てができる」という第1条件でもあるし、元気なまちを目指していくというところは、子どもの声が聞こえたり、地域が明るいというところにつながると思い、そこが一番大事ななところ。

4つ目は、「時代の流れを」というところで、全国的に少子高齢化で人口が減っていく中でも、それを受け入れながらも幸せを実感できるまちにしていこうという意味が入っています。

5つ目の「このまちでずっと暮らしたい」というのは、4番の、人口減少したとしても、このまちだったらずっと暮らしていきたいって思えるという香南市の思いというか、香南市で住むことが幸せを感じるというところを目指したいっていう思いがあります。

目指す将来像の1から5までが全部網羅されてるようなことを1つの言葉に表すと何になるのかという部分で、上段のAからIまで考えました。

ちなみに高知県の戦略名称は「高知県元気な未来創造戦略」であり、これを香南市バージョンにすると、Hの「香南の元気未来創造戦略」というふうになります。

なお、Aについては第二期の総合戦略の中で、小学校6年生、中学校3年生、18歳の方に総合戦略というものを、冊子を使って勉強していただき、それを見た中でアンケート調査にご協力いただき、今年が5年目になります。

その冊子の名称が「こうなんの未来」といって、それをそのまま戦略にするということで、言葉もひらがなで表しています。

次のBは、それを少しもじって、未来のことを考える会議なので、3年先ではありますけども、人口ビジョンを見ると2060年までを見通したところの戦略づくりでありますので、こうなんの未来づくりとしています。

Cとしては、このまちで生きていくっていう意味で、香南LIFE未来づくり戦略と英語も交えて表してみました。

Dは、「香南市民が中心ですよ、皆さんのことを考える戦略です」ということで、「市民真ん中、こうなん未来づくり戦略」として見ました。

Eは、「みんなが幸せであるということが一番大事」ということで、みんなHAPPY香南のみらい戦略。

Fは、これから先、人口が少なくなるけども、「それでも自分たちは明日に向かっていくんだ、その中で生きていくんだ、幸せを掴むんだ」みたいなところで、「明日に向かう香南の未来戦略」

Gは、今までとは違う、これからの香南市に向かっていこうという意味合いを記載しています。

Hは先ほども説明した通りで、では、なぜ県がこういう名称にされたかについては、江口委員より聞きたいなと思ってます。

そして、Iはそれを短くした香南市元気未来戦略となっています。

AからIのタイトル(案)と下の1から5番までのサブタイトルがありますが、委員の皆さんにはぎりぎりになりましたけども、追加資料として先だって資料を回らせていただいた次第です。

この場で一定ご意見等をいただきながら、若しくは新たな言葉が出てきても良いと思います。皆さんと本日の残り時間で議論したいなと思いますのでよろしくをお願いします。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

共通点としては、「香南」、若しくは「香南市」という用語が入るといふ部分と、あとは「未来」といふ部分。言葉も、漢字、若しくは ひらがなで表記されている部分があります。

そして最後は戦略です。

高木委員にお伺いしたいのですが、デザイナーというお立場で、何かアドバイスといふか、全然違ふ話でも全然構わないのですが、よろしいでしょうか。

(高木委員)

こういうタイトルの場合、シンプルな方がわかりやすくいいと思うので私は B とかがいいのかなと思ひました。

英語等が入ってしまうと何か急に軽い感じがして、内容とそぐわない感じがするので辞めたほうがいいと思ひます。

一般市民も内容を見るものになることを考えると、本気で取り組んでるといふことが伝わるタイトルとサブタイトルがある方がいいと思ひます。

サブタイトルで「デジタル化」等の先ほど議論された言葉を使つて、「幸せを実感できるまちへ」とか「何かをして変わるんだよ」といふことが伝わるほうがいいと思ひます。

(石筒委員長)

ありがとうございます。長くなくてもいいんですね。

シンプルでもちゃんとわかれば。

(北委員)

今日の資料 2 のタイトル(案)に「香南市の元気みらい戦略」とあるんですが、これ結構いいなといふふうに思ひました。

案の中でいうと I なんですけど、香南市「の」が入つた方がいいかなと思ひています。

目指す将来像なんですけれど、これも案に出ている部分が良く感じていて、「人口が減少する中であつても」といふようなマイナスイメージが出てくるような言葉は除けて、その代わりに「誰もが」といふ言葉を入れて、『誰もが安心して暮らし、働き、子どもを育てることができるまち』とすると、基本目標の安心誰もが安心して暮らしていふところが、基本目標を全て網羅してると思ひました。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

I にのみ「香南市」と漢字で市の名称がっしり「香南市」まで入っている。

他は「こうなん」まで、漢字かひらがなで表記されている。

いわゆる自治体名ではなくて、「こうなん」としているんですが、その部分の市民の皆さまの感情はいかがでしょうか。

(北委員)

「こうなんし」と入力して、一発で「香南市」と出てこないケースが多々ある。

他都道府県のまちが出てくるように思える。

名称としては、「市」はいるように思える。

(廣岡委員)

私としては「市」の部分にこだわりはない。

全部拝見した印象で言へば、A か B がいいかなといふふうに思ひました。

仕事として、編集をして、発言すると考えると、A か B かなと感じたところです。

(門田委員)

高知県の取り組みを思い出しますと、「戦略」という言葉が良くついているイメージがある。僕が会社の中、社員に説明する時に「戦略」とか使わずに、最近は「ビジョン」とつけている。「戦略」というと、すごい硬くなっている気がする。

別に、戦略で、「こう攻めていく」とか「何かこうこうやり切るぞ」と言うのではなく、これからどんどん変わっていかないといけない目標につける名前だと思うので、決めつけるのではなく、良い言い方が見つからないが、少しぼやっとしてた方が、タイトルとしては良いのではと勝手に思いました。

(國常委員)

私はタイトルをパッと見たときに、ひらがながやっぱり馴染みやすいなという単純な理由で ABC なんかがいいのかなって思いました。

サブタイトルのところなんですけど、この戦略のターゲットは誰なのかって考えたときに、香南市の様々な世代の方が、最終的には全員にはなるんですけど、タイトル等を見たときに、自分の心にグサッと、「私のことだ」みたいに刺さるってなるとしたら、「全員だよ」というよりは、ターゲットが狭まっている方が刺さるんじゃないかなというのはすごく思って、このサブタイトルの 1 は、若者かなというイメージがあるし、2 はどちらかといえば高齢の方、「健康で長生き」というワードが入ってるので。

お母さんだったら「子育て世代、ちょっと若い世代なのかな」というふうになって、本当に誰もがっていうのもすごく、もちろんそれが一番大事だと思うんですけど、この戦略が誰をターゲットに置いているのか、誰に響かせたいのかっていうのを考えたときに、何かちょっとこう狭まった感じのサブタイトルの方が、刺さる人には刺さるのかなっていうふうに思いました。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

「戦略」という言葉は、戦うための謀を示す言葉で、。我々は戦おうとしてるのかという部分もあります。人口減少というのに抗おうとしてる部分はあると思いますが、戦略って、相手に勝つための作戦の部分の意味合いというのがあります。確かお話を聞いたときに、そこを含めて、何を狙っているのかというところは、まだ最終までに時間もあるので、そこは整理していただきたい。

(江口委員)

10 年前から地方創生の取り組みが始まり、法律ができて、国は「戦略つくります」ということで、県も戦略室で戦略を作ったという流れで今がある。

戦略という言葉を使っていますが、県は使っているだけと思ってもらい、思い切って、その言葉を外しちゃうというのも大丈夫だと思います。

県も第 3 期の今年度から変えている。

(別府副委員長)

県は、やみくもにやるのではないという事を、計画的に進めていくという意味で「戦略」を使ってるんだと思います。

(石筒委員長)

やろうとしてることを整理したときに、それ以外に適切な表現とかもあれば、それはそれで構わないと思う。

本日ここで決を取るようなものではありませんので、一旦はこういったアイデアもいただいたという事で整理していただき、委員の皆さんも、本日の資料の番号でいいよとか、もう少しこういうのはどうかというのも含めて、メール等で何うような形でよろしいですか。

これに近い表現でもいいですし、ちょっと変えていただいてもいいです。

あと、将来像のところも、参考資料にイメージが出てますけれども、こちらも同じ考えでご意見を頂戴できればと思います。

状況によっては戦略が無くなるという判断もあるという事です。

先ほど「ビジョン」の話がありましたが、そういった表現の方がいいんじゃないか等の部分を、やっぱり「目指すべきところがどういうことか。」を整理いただき、進めていければと思います。

(中道委員)

「行政が」というよりも「市民一人一人がみんなで行っていく」ということはまず前提だと思います。

印象ですが、確かに漢字が多いと、すごい上からといいいますか、トップダウンのイメージがあるのかなというふうに思っています。

ですので身近にという意味ではひらがなの「こうなん」、例で申しますと、A や B は身近に感じるかなと思いました。

戦略という言葉は、硬いといいますか、ちょっととつつきにくいイメージもあるかというふうに、先ほどの話を伺って思いましたので、ビジョンなのかミッションなのか、他の言葉なのか、カタカナ等が適切かどうかも含めて、考えて、意見出したいと思います。

(石丸委員)

皆さんいろいろなご意見が出てきている。人それぞれ考え方が違うので大変だとは思いますが、

県の方は「高知県元気な未来創造戦略」ということですが、僕としては、この下段の「やさしいまちづくり」とかの「やさしい言葉」がもっといいんじゃないかなという部分もあります。

皆さんからの様々なご意見をいただきながら、今後、色々な案を出してもらいながら、決めていけばよいと思う。

今日ここで案を出してもらってもなかなか決めにくい部分もあると思います。

僕は「やさしいまちづくり」とか「まち」の方が良いと思っていて、戦略は練っていかなくてもいいんじゃないかなというふうに感じています。

(小笠原委員)

答えは出しにくい部分もありますが、観光 PR でよく南国市、香南市、香美市で、3 市で 1 つですよみたいな話で、県外等で PR をするが、「こうなんし」とは読めないのが現状。「かなん市」と読まれる。この戦略は、市民向けで、外向けではない部分もあるので、どちらが良いかという部分もありますが、情報提供として、外からは「こうなん市」と読めないことを共有します。

(古川委員)

私は漢字かひらがなの部分で、香南市になる前からの住民なので、以前は「香美郡〇〇町」であったが、1 つになって、香南市っていうのになったときに、「南」という漢字が入って、温かみを感じた。

あったかい雰囲気、ほんわかした雰囲気が入ったなと感じたことを思い出した。

漢字を見て、元香美郡住民として思ったので、そういう意味では、「香南市」という漢字の名前はすごく私自身は好きなので、漢字でもいいんじゃないかなという思いです。

(上田委員)

皆さん持っているそれぞれのイメージが反映される部分である。

子どもたちにアンケートを取るときの冊子と一緒に名称というところで、若い世代、これからを担う方達に向けて、なじみのある言葉であったら、繋がるようであれば、そういう名称等もありなのかなあとちょっと思ったことです。

(北山委員)

個人的には語呂が良いことは大事かなと思ってるので、高木委員と同じく B 推しなんですけど、例えば、「の」とか「は」等の言葉が入ると、ちょっと言葉として弱くなるイメージなので、言葉がトントントンと続

いていった方が言葉として力強いかなと思ってます。

香南市に関する漢字やひらがなの部分に関する感想は特にやめとこうかなと思うんですけど、サブタイトルが「〇〇な町へ」というような形が良くありますが、何かすごい他人行儀な感じがするというか、誰かがしてくれるんやなというような雰囲気になると思っています。

この計画は、やっぱり市民にひとりひとりが何か行動しないといけない計画だと思うので、もう少し、全然思いついてはいないんですが、例えば、終わりが「〇〇に」ということで、「に」で終わるのも良いと思います。

終わりを「幸せに暮らせるまちに」というだけでも、何か自分たちでやろうよっていうふうな気になるのかなと思います。

また、例えば、佐川町だったかな、「真面目に面白く」といったような、わかるようでわからない、けど、何かこう面白そうとか、市民一人一人が「計画見てみようかな」と思うようなものがないかなと思います。

(江口委員)

何で高知県の計画に「元気」がついてるんやろっていうことで、実はこんな話があるかと思って、担当課に聞いてきて、明確な答えはなかったのですが、要は、高知県の戦略の目指す姿が「将来を担う若者が地域地域で魅力ある仕事に就き。いきいきと住み続けられる元気な高知県」なので、キャッチフレーズみたいな活用じゃないですけど、高知県はわりかし若い人をターゲットにしてるっていうのがあるので、そういう意味で若い人たちが、「元気に」というところが生かされた部分になります。

また、知事が良く言われるキャッチフレーズみたいなところの中にも「いきいき」と仕事ができる高知県ですとか「いきいき」と生活ができる高知県を構築する というようなフレーズがあったということで「元気」が入ったのかなと整理をしています。ご参考までに。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

ひらがなにするか、漢字にするかの部分は、例えば、タイトルはひらがなだけど、キーワードは漢字で表記する等の工夫もありだと思いますし、どちらでも構わないと思いますし、最終的にここにある用語以外に、やっぱりこういうワード入れてもいいのではないかな等、ご意見があれば、それをつけ足していただければと思います。

皆さんもご意見を市までお伝えいただければと思います。

皆さんの想いが入ることがすごく大事だと思います。

まだ時間はありますので、今後また議論を進めていければと思います。

さて、本日の議事は以上になりますが、全体を通して、何かご意見や、資料についての疑問点等がありますでしょうか。

後日、気づいた点等があれば、また、連絡を事務局までお願いいたします。

それでは、最後に、今後のスケジュールについて事務局よりお願いします。

(事務局)

それではスケジュールのご説明をさせていただきます。

お配りした資料のスケジュール表では、本日いただいた意見等を再整理したものを2月の3・4・6・7日あたりにはご確認いただき、最終的な確定をしていただけないかというふうに記載をしていますが、本日の議論の中で、2月までに、もう1回、お集まりいただく可能性が出て参りましたが、

このことについては、今後、また、ご連絡をいたしますので、ご返答をいただけますと幸いです。

また、もう1点として、2月には、確定をしてですね、そのあと、パブリックコメントを取り、完成へ向けていきたいと考えています。

2月の会で、ご確認いただき、その後の対応を委員長及び事務局にお任せいただけるようであれば、その後は、そういった形で、進める可能性もございますので、2月の中身を見ていただき、ご判断をいただければと存じます。

ただ、記載はしたものの、ちょっと調整がつかなければまた変わってしまうかもしれません。

またこれはGoogleフォーム等でご連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

3. 閉会

(事務局)

それでは、閉会にあたりまして、副市長より一言いただきます。

(別府副市長)

皆さまお疲れ様でございます。

この策定委員会も6月から開催しまして、ワークショップも重ねながら、一定、当戦略の形が見えてきていると思います。

本当に、委員長をはじめ、感謝をさせていただきたいと思います。

まだまだたくさん整理を要する部分はございますし、KPIも作っていかないといけない。

また、来年度の予算への反映の整理もありますが、こちらは事業化もあわせて進めていきたいと思えます。

戦略という名称になるかはわかりませんが、本日いただきましたご意見等から、よりブラッシュアップをしていきたいと思っていますので、引き続きご協力をお願いいたします。

ありがとうございました。

以上